



チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第22回「株価指標について」

今週は、株式投資を行うときに、株価が割安か割高かを判断する材料として利用される株価指標についてお伝えをします。

～株価指標とは～

株価指標とは、規模や売上の大きさが違う企業同士を比較するためのものです。同業他社との比較や所属する業種の平均と比較することで、株価の水準が割安なのか割高なのかを判断します。また、一つの会社の過去の実績と比較することで現在の株価が割安なのかどうかを判断する時に使用します。

株価指標には様々なものがありますが、よく使われる3つの指標 ①株価収益率 (Price Earnings Ratioを略してPERと呼ばれています) ②株価純資産倍率 (Price Book-value Ratioを略してPBRと呼ばれています) ③自己資本利益率 (Return On Equityを略してROEと呼ばれています) を確認してみましょう。

①株価収益率 (PER) は株価を1株当たりの純利益で割ったものです。倍率で表します。

利益からみた「株価の割安性」を示す指標です。この指標の計算の仕方は以下の通りです。

$$\text{☆株価収益率 (PER) <倍> = 株価} \div \text{1株当たり純利益 (※)}$$

$$\text{(※) 1株当たり純利益} = \text{純利益} \div \text{発行済み株式数}$$

この指標は、株価が純利益の何倍の値段になっているかを示しています。一般的にPERは数値が高ければ割高、低ければ割安と判断されますが、単独で使用するのではなく、過去の数値との比較や同業他社などとの比較で割高、割安を判断します。

②株価純資産倍率 (PBR) は株価を1株当たりの純資産で割ったものです。倍率で表します。会社の純資産 (財産) から見た「株価の割安性」を示す指標です。この指標の計算の仕方は以下の通りです。

$$\text{☆株価純資産倍率 (PBR) <倍> = 株価} \div \text{1株当たり純資産(※)}$$

$$\text{(※) 1株当たり純資産} = \text{純資産} \div \text{発行済み株数}$$

純資産とは総資産から負債を引いたもの＝「解散価値」（企業が解散した時に株主に返ってくる資金）この指標は、株価が純資産（解散価値）に対して何倍の値段になっているのかを示しています。この指標が1倍であれば、会社の解散価値と株価が一致しているということになります。1倍以上ですと解散価値以上に会社が評価されていることを示しています。一方、1倍以下であれば解散価値以下に評価されており、割安と判断されます。ただ、この場合注意すべきことは投資家が企業の資産価値を額面通りに評価していない場合もあるため一概に割安とは言い切れない場合があります。

昨年春から東京証券取引所は株価純資産倍率が1倍を割り込んでいる企業に対し、資本効率の改善などによって1倍割れを是正する努力をするよう要請しました。その結果、自社株買いや配当政策の変更などを実施する企業が増え、株式市況が上昇する一つの要因となりました。

③自己資本利益率（ROE）は、自己資本に対する「経営の効率性」がわかる指標で、「自己資本がいくら利益を生み出したのか」という割合を計算したものです。1株当たりで計算し、百分率（%）で表します。この指標の計算の仕方は以下の通りです。

☆自己資本利益率（ROE）＝1株当たり純利益÷1株当たり純資産（※）

（※）説明をわかりやすくするため、ここでは純資産＝自己資本を前提とします。

自己資本は、主に株主が出資した資本を示します。財政面から企業価値を示す数値。自己資本利益率（ROE）は、出資した資金に対してどれだけ利益を生み出しているかを示しているため、高ければ高いほど効率が良いと判断されます。一般的に10%程度が目安とされます。海外の企業では10%を超える企業が多いですが、日本の企業では一桁台が多くこの指標を上げていくことが求められています。ただ、この指標は分母の「1株当たり純資産」を少なくすることによって比率を上げることが出来ますが、純資産を少なくすると景気低迷の時に経営が不安定になるリスクがあることにも注意を払う必要があります。特に製造業が多い日本では、この指標を無分別に高くすることは如何なものかと思えます。

以上、代表的な株価指標を説明してまいりました。株式投資をする際に、これらの指標を確認し、株価が過去や同業他社と比べてどのような状況にあるのかを知ったうえで投資されると納得のいく投資を行うことができると思います。是非、参考にしてください。